

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520201

研究課題名(和文) 1940年代日本文学における地域性の生成 東北地方における疎開・移住を視座に

研究課題名(英文) Generation of regional characteristics in the 1940s Japanese literature -
evacuation, resettlement in the Tohoku region

研究代表者

森岡 卓司 (MORIOKA, Takashi)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号：70369289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：1945年1月～1946年8月までの東北六県県紙、及び全国紙二紙における文芸欄及び文化活動に関連する記事の悉皆調査を行い、東北地域における文化活動の特質を見通すための資料的基盤を形成した。

帰郷を含む疎開において生じた具体的な接触を通じて派生した文学的活動の動態について地方雑誌を中心として調査分析を行った。その結果として、モダニズム文学と地域性との関わり、疎開文学者の地域的な活動の実態など種々の具体相が明らかになり、背景にあった地域主義とナショナリズムとの関係についても新たな知見を得た。

研究成果の概要(英文)：We conducted a complete enumeration of newspaper articles related to the literature and cultural activities, and created the material basis for forecast the cultural activities in the Tohoku region.

The dynamics of the derived literary activities through specific contact that occurred in the evacuation was revealed by research with a focus on local magazine. As a result, various specific phase, such as the relationship between literary modernism and regional characteristics, the actual situation of the regional activities of the evacuation poets, was revealed. We also have provided a new view about the relationship between a regional and nationalism in the background.

研究分野：日本近代文学

キーワード：地域文学運動 疎開文学

1. 研究開始当初の背景

近年の日本近代文学研究において、中央文壇を中心とした文学史理解に対する批判的な見直しの機運が高まり、全国各地域の文学活動における固有性や特色(以下文学の地域性と称する)を改めて発掘し、問い直すとする動向が見られてきた。

しかし、この動向にしたがって進展してきた地域文学研究には、次の二点の課題があることも明らかとなってきた。

一つは、それが地域出身あるいは定住の著名作家研究という形をとりがちであり、一時的な滞在者あるいはそれに影響を受けた、必ずしも著名とは言いがたい文学者たちによる活動がとり上げられにくいという研究対象領域の問題であり、第二には、地域の文学活動を従来の中央文壇中心の文学観にのみよって評価してきたという文学理念上の問題である。

このいずれも、日本文化を国民国家の枠組みの中でのみ捉え、全国的な文芸思潮が地域文学活動を一方的に包摂すると考える見方によって生じる課題であった。しかし、北河賢三『戦後の出発文化運動・青年団・未亡人』(青木書店、2000)などの近年の研究成果によって徐々に明らかとなってきたのは、とりわけ1945~50年の日本における文化・文学運動を、中央文壇の地域における縮小再生産という図式のもとに捉えることの不可能性である。

これらの状況から、社会教育行政が本格化し、また芸術のマスメディア化が急激に進展する以前の地域文化活動には、現在の観点からは見落とされがちな多様性が存在したことが示唆されていたといえる。一次的な証言者が少なくなりつつある状況にかんがみても、そこで文学者が果たした役割や生み出した作品などを含めた、1940年代の地域文化活動の具体的な説明は急務であった。

2. 研究の目的

1940年代のとりわけ東北地方に顕著であった作家の疎開や移住は、「中央」と「地方」が交渉を持つ契機となり、そこで新たに生じた、あるいは従来の在り方に変化をきたした地域文学運動の展開は、中央文壇中心の文学史観ではすくい取ることができない多様性を示したものと考える。

従って、現在に至る地域文学活動に強い影響を与えた1940年代東北における文学の地域性のあり方を、東北地方複数地域のケーススタディによって説明することを、本研究の第一の目的とした。そのことは、単に「地域文学運動」の具体的な様相を説明するだけにとどまるのではなく、たとえば河西英道『東北 つくられた異境』(中公新書、2001)『続・東北 異境と原境のあいだ』(中公新書、2007)が見取り図を描き出したような、近代日本におけるナショナルなものとのリージョナルなものとの関わりを、文学的な表象とい

う具体的なレベルにおいて改めて問いなおす試みでもあった。

3. 研究の方法

地域資料の調査によって作家の疎開・移住を契機にどのような活動が行われ、地域がどう表象・受容されたかを明らかにすること、すなわち、地域性の生成を、「何が行われたか」と「どう描かれたか」という二つの観点から考究するために、以下の方法を採用した。

「何が行われたか」、すなわち対象時期に行われた地域文学運動の実態については、聞き取りを含む資料調査によって実証的に探求した。ここでは、既存文化との関わりを含む地域文学運動内の作家の位置、地域文学運動の広がりや限界、さらに運動がそれ以降の時代にどう継承されたかといった問題が明らかにされた。

「どう描かれたか」、すなわち疎開・移住作家を中心とした文学運動の中で地域がどのように表象され、また受容されたかについては、地方新聞の文芸欄に関する東北全県に共通した調査を基盤にした、地域文化運動受容の様相をたどる言説分析と、それをうけた個々のテキスト分析によって検討した。ここでは、地域イメージの受容と再生産、定着のプロセスが明らかにされた。

以上の考察の結果提示された複数地域のモデルケースを総合的に検討することで、疎開・移住を通じた文学の地域性成立の東北地方における一般モデルを提示し、その射程を総合的に検討した。この検討を組織的にすすめるために、年一回の研究報告会を継続した上で、最終年度には全国学会でのパネル報告を行って、成果について開かれた議論を求めることとした。

4. 研究成果

研究協力者である竹浪直人、茂木謙之介の協力を得て行われた金木文化会に関する聞き取り調査、および雑誌『月刊東奥』(青森)『東北文学』(宮城、東北)『意匠』(山形)『労農』(山形)などの資料調査によって明らかにした地域文学運動の実態を踏まえたうえで、1945年1月~1946年8月までの東北六県県紙、及び全国紙二紙における文芸欄及び文化活動に関連する記事の悉皆調査を行い、東北地域における文化活動を見通すための資料的基盤とした。これらの調査を通じて、日々野土郎、沢渡恒、森英介ら、埋没の危機に瀕していたともいえる文学者たちの営為に再び光をあて、その時代的な活動の意義を明らかにしうる資料が整備された。

そのうえで、帰郷を含む疎開において生じた具体的な接触を通じて派生した文学的活動の動態について分析を行った。ここでは、島木健作の転向後の歩みと地域性、モダニズム文学と地域性との関わり、太宰治、神保光太郎、丸山薫らの疎開文学者の地域的な活動の実態など、これまでの文学史的把握に修正

を迫るような種々の具体相が明らかになった。また、その背景にあった地域主義とナショナリズムとの関わり、外地への視点にも隣接するような東北観の位相についても新たな知見が開かれた。

これらの研究成果の主たる部分については、2015年度日本近代文学会秋季大会(2015.10.24~25、於金沢大学)におけるパネル「1940年代の東北表象と地方文学運動」(パネル代表者森岡卓司)において学会に広く公開され、日本近代文学会『会報』124号(pp27、2016.4)において高い評価を得た他に、論文、東北地区で行われた研究会における発表、公開講座、メディア記事執筆などの機会を通じて地域へと還元された。たとえば、森岡卓司(研究代表者)が『山形新聞』紙上に、連載記事「やまがた再発見」の一部として執筆した記事(研究期間中に掲載されたのは、「15.田山花袋 上、16.田山花袋 下」(平成22年7月26日、8月2日)「36.森英介 上、37.森英介 下」(平成23年1月17日、1月24日)「63.山岸外史」(平成23年9月4日)「115.浜田広介 上、116.浜田広介 下」(平成24年9月9日、9月16日)「151.黒田喜夫 上、152.黒田喜夫 下」(平成25年5月26日、6月2日)「175.吉本隆明 上、176.吉本隆明 下」(平成25年11月10日、11月17日)の6作家についての記事であり、その一部は次項[図書]の に掲げた単行本に収録されている)については、地域から大きな反響を得たほか、一次証言者が新たに現れるなどして、共同研究の推進にも好影響を与えた。

今後は、これらを最終的にとりまとめた論集を単行本として発行し、その成果を広く世に問うことを計画している。また、研究代表者が新たに申請し採択された科学研究費基盤(B)共同研究(研究代表者森岡卓司、『東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究』、16H03364)研究代表者と研究分担者一名が参加する科学研究費基盤(B)共同研究(研究代表者大原祐治、『占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的考察』、16H03386)その他研究分担者が新規に遂行する研究などにおいて、本研究音成果は基盤的な知見を提供するものとして発展的に引き継がれている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

野口哲也、「戦後詩のなかの『至上律』」、『武蔵野文学館紀要』6、査読無、2016、pp1-21

高橋秀太郎、「『東北文学』(河北新報社刊)研究序説 創刊の経緯と背景」、『東北工業大学紀要 理工学編・人文社会学編』36、査読無、2016、pp59-63

仁平政人、「金木文化会と太宰治(下) 機関誌『金木文化』を中心に」、『郷土作家研究』37、査読無、2016、pp12-20

高橋由貴、「『お伽草紙』の「浦島さん」と

童話」、『太宰治研究』23、査読無、2015、pp35-44

仁平政人、「金木文化会と太宰治(上)」、『郷土作家研究』36、査読無、2014、pp9-18

山崎義光、「吉本隆明における島尾敏雄論の付置」、『季刊 iichiko』118、査読無、2013、pp65-77

森岡卓司、「文学を引き裂く 吉本隆明の芥川龍之介論」、『季刊 iichiko』118、査読無、2013、pp95-116

[学会発表](計7件)

森岡卓司、仁平政人、高橋秀太郎、山崎義光、大原祐治、「1940年代の東北表象と地方文学運動」(パネル発表)、2015年度日本近代文学会秋季大会、2015年10月25日、金沢大学(石川県金沢市)

野口哲也、「第二次『至上律』とその周辺 高村光太郎と地方詩人」、2015年度日本近代文学会東北支部冬季大会、2015年12月23日、仙台ビジネスホテル(宮城県仙台市)

高橋秀太郎、「忘れられた日比野士朗」、2013年度日本近代文学会東北支部冬季大会、2013年12月23日、仙台ビジネスホテル(宮城県仙台市)

高橋由貴、「詩集『隻手の晩歌』と『無数のあの手この手』 “The Secret Muse” C・ハタケヤマから畠山千代子へ」、2013年度日本近代文学会東北支部冬季大会、2013年12月23日、仙台ビジネスホテル(宮城県仙台市)

森岡卓司、「浜田広介の詩と小説」、第8回ひろすけ童話学会研究発表会(招待講演)、2012年8月19日、浜田広介記念館(山形県高島町)

高橋秀太郎、「1940年代の地方文化 『月刊東奥』を例として」、日本文芸研究会平成24年度第2回研究発表会、2012年12月8日、東北大学文学部(宮城県仙台市)

[図書](計2件)

森岡卓司他10名、荒蝦夷、『やまがた再発見』、2014、総頁数326、森岡担当箇所pp102-116、245-263

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

[その他]

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

森岡 卓司(MORIOKA, Takashi)

山形大学・人文学部・准教授

研究者番号:70369289

(2)研究分担者

仁平 政人 (NIHEI, Masato)

弘前大学・教育学部・講師

研究者番号：20547393

高橋 秀太郎 (TAKAHASHI, Shutaro)

東北工業大学・共通教育センター・准教授

研究者番号：40513065

野口 哲也 (NOGUCHI, Tetsuya)

都留文科大学・文学部・准教授

研究者番号：90533000

山崎 義光 (YAMAZAKI, Yoshimitsu)

秋田大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：10311044

高橋 由貴 (TAKAHASHI, Yuki)

福島大学・人間発達文化学類・准教授

研究者番号：90625005